

市長退任にあたりご挨拶申し上げます。

本日は、松本議長はじめ議員各位、また幹部職員の皆様には、こうしてお集まりいただき、ご激励を賜りましたこと厚く感謝申し上げる次第であります。また先ほどは松田副市長から職員を代表しての身に余る言葉を頂戴し、心から感激しております。

さて振り返りますと今日までの四期 16 年の歳月は、私にとりましてかけがえのない貴重な体験でありましたし、市民の皆様、また議員の皆様や職員各位にとりましても激動の年月であったと思います。

一般的に変化というものは、往々にしてその渦中にいる本人の目線では気づきにくいものであります。私は市町村合併前に北松浦郡選挙区の県議会議員として活動をしておりましたので、今でも市外の知り合いから度々連絡を受けるのですが、彼らは「平戸は以前と比べて劇的に変わった。昔は地味で暗いイメージしかなく、歴史はあるけど未来への明るさが感じられなかった。でも今は県北をリードする元気で勢いのある街になった」という称賛の言葉を寄せていただいています。

客観的にカレンダーを振り返っても、平戸市内では毎週何らかのイベントが実施されており、それは行政が関与しているものもあれば、民間のグループが仲間を呼び集め楽しく語らう規模のものから幅広く平戸そのものを楽しんでいる、そんな活気あふれる交流がそこかしこに見受けられるコミュニティに深化している状態です。

私はこのことこそ、住民の総合力であり、行政と民間が一致結束して進めてきた理想的な生涯学習の舞台が、ここに結実したといえると思います。本当にこの 16 年の間、歴代の副市長及び幹部職員の皆様、現在に至るまで私を支え続けてくださった職員各位に改めて心より感謝申し上げます。

思い起こせば、市長就任直後の訓示において「給料の三倍働こう！」と呼びかけたことが、当時から今に至って職員間での語り草になっており、昨今の風潮ではパワハラとともとれる表現ではありましたが、現在の職員各位の働きを見るにつけて、本当にこの通りの頑張りが数多く見受けられます。

もとより私自身の性格が、「同じことを繰り返させられるのが嫌い」「人の真似をしたと指摘されるのが嫌い」、また合理的な進め方を追求するあまり

「形式的なことをするのが嫌い」というまさに公務員の世界では相応しくない、ある意味、皆さんにとっては扱いにくい存在だったであろうと反省しているところであります。

加えて、私が演劇やバンド演奏などを舞台経験をしてきたことによって、常に観客である市民や観光客、来訪者など第三者を喜ばせたいというサービス精神から、各種事業にも他の同様の事例では味わえない演出を求めたりしたことが数多くありました。

しかしながら、こうしたことが従来の行政の在り方を見つめなおし、「真に住民のために」また「受益者の利益のために」という本来の事業執行目的の最適化を実現したのではないかと確信しております。

そうした意味では、組織のトップの発想や理念、および行動哲学をいかに部下職員が理解し、組織全体としてその意義を共有し、推進力に転換していくかが重要であることを証明したのだと思います。そしてそこに必要不可欠なのは「言葉の持つ力」だと私は信じております。

市役所は市内最大の組織団体であり、多岐にわたる幅広い業務内容を網羅する体制を日々維持しながら推進していくことは、なかなか難しいことです。また同時に、組織のトップの考え一つで、事業の成果や内容が変わってくることもしばしばあります。そんな節々の局面において、職員お一人おひとりの立場に立てば、ふと「ウチの市長だったら、こんな時どうするだろう」と考えたことも数多くあると思います。従って、リーダーとしての条件は、自らの考えを日頃から組織内で共有しておく必要があるということです。私は、これまでの四期16年の間に、実に180通を超える自らの思いや考えを訓示としてA4用紙二枚程度にまとめ、年度節目の行事や毎月の冒頭など機会あるごとに発信してまいりました。後半の数か月は、毎月とまではなくても、国会で議論が分かれながらも基礎自治体に直結するような課題について、これを傍観せず自らの意見をまとめて公開したこともありました。

そのような活動こそが、価値観の共有と事業の推進力につながるものと考えてまいりました。つまり政治とは言葉の作業であって、阿吽の呼吸や以心伝心では到底対応しがたい、複雑できめ細やかなものでもあると言えます。言葉をわかりやすく操ること、つまり説明責任をしっかりと果たしてい

くことこそが肝要であり、議論を前提とする民主主義の基本姿勢であると思います。そしてその能力を備えていくには読書が大事であり、また言葉を職業としている落語家や芸人の皆さんによる舞台センス、表現力などにも関心を寄せていくことが大切であるとも考えさせられます。

これからも行政課題は続きます。特に、地域を支え合っていく仕組みを持続可能なものにしていくために、安心安全を保障する防災や医療、そして交通政策等はとても重要な課題です。そして、これらの課題に終わりはありません。常に数年先の状況を見据え、次代を先取りして政策を構築していく作業は本当に難しく、骨の折れる業務ではありますが、どうか職員各位のこれまでの努力の積み重ねや実績を土台として、新しい市長の元で団結し、困難の壁を打ち破って道を切り開いてほしいと強く望みます。

さていよいよ今日のこの日をもって市役所を後にいたしますが、皆さんの顔を思い浮かべる度に、様々な事業の成果や苦労話が思い出されます。本当に16年間は私にとって、エキサイティングであり、楽しく有意義な毎日でした。改めて、職員各位のご労苦に深く感謝を申し上げます。そして、北松浦郡を舞台にした県議会議員の時代から続く選挙や政治活動を含めますと通算27年の長きにわたり私を支えてくださった後援会や地域の皆様にも心からの感謝を申し上げます。

結びになりますが、今後とも平戸市がかけがえのない歴史や伝統文化を確実に継承し、明るい未来に向かって輝き続け、国内外を問わず多くの皆様に親しまれ、選ばれ続けられる自治体として発展しますこと、そして市民の皆様、市議会および職員各位のご健勝ご多幸をお祈りいたしまして、退任の挨拶といたします。本当にありがとうございました。